

令和4年度 研究構造図【課題解決】分科会

研究主題

創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成

— 言語力・課題解決力・情報活用力を働かせた探究的な学びを通して —

課題解決分科会の重点

探究学習とは、答えのない問いに向き合い、自らの可能性に気付く学びである。自ら課題を見付け粘り強く課題を探究し、協働しながら新しいものを創造していく資質・能力を育てるために、様々な課題解決方法を実践的に学び、活用していくことが大切である。

本分科会では、自分で考え自分の言葉で表現し、対話や協働を通して、納得解を生み出す力を育成することを目指す。

育てたい資質・能力

B1 課題設定力

児童自ら課題を発見し、「問い」「仮説」を立てることができる。

取組みの柱

○関心をもちやすい課題提示…身近な素材や児童自身もつ疑問、イメージとのギャップなどを生かし、児童に課題意識を持ちやすくして、問題提起をさせる。

B2 情報収集力

フィールドワーク等、自分の目で確かめ、自分で感触を確かめる調査・実験・観察等を行うことができる。

取組みの柱

○実感を伴うフィールドワーク…新たな発見や疑問の解決等、「目的のある体験」を通して課題解決に向けた情報収集させる。

B3 整理分析力

多様な情報を、思考ツールを活用して、比較・分類、関連付け、構造化することで、課題解決策を見出すことができる。

取組みの柱

○豊富な思考ツールの知識・活用…豊富な思考ツールの中から適切なものを取捨選択し、課題解決に活用する。

B4 振り返る力

自ら振り返り、自己評価を基に、学びの成果を内面化・言語化し、物事の本質を見極め、新たな課題を見出すことができる。

取組みの柱

○単元全体のゴールを明確にさせ次のステップに生かしていくため振り返りや自己評価をさせる。

○『ふじみ探究ノート』（学びの本質を変える探究メソッド）を作成・活用・検証し、すべての学年が多様な教育活動において探究的な学びを通して、学習の基盤となる資質・能力を育成することで、正解のない課題に納得解を導き、新たな価値を創造できる力を身に付けていく。

◇「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加を通して、課題解決力の成果検証を行う。